

奈良県指定文化財調査票

調査日	2020 年	12 月	3 日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	谷脇古墳				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他 ()
指定年月日	1978年(昭和53)3月28日				
所在地	宇陀市大宇陀守道(もち)モト下字黒石927番地				
所有者 管理者	個人				
員数	1基				
時代区分	古墳時代後期(6世紀中頃)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	古墳開口部付近に県・宇陀市教育委員会の説明板がある。場所の案内板はなかった。				
公開	見学自由(作業されていたら、声掛けは必要だと思うが、調査時には居られなかった。)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input checked="" type="checkbox"/> 良い	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足 ()				
当面の課題	個人所有、しかも養鶏場なので難しいと思われるが、案内板がなく戸惑った。(古墳は鶏舎の横を通り、鶏舎の裏にある。ウィルス持ち込みを警戒する表示もある。)雑草などで、夏場はもっと分かりにくいと思う。鶏舎を通らずに古墳に行ける道を作るなど、検討すべきと思う。入口に施錠などもなく、開口口から石棺が見える状態だが、石室の中は綺麗で、石棺も保存状態には当面の問題はないと思われる。				
今後の課題	1944年(昭和19)県教委が石室発掘調査、1978年(昭和53)県史跡指定、1996年(平成8)花園大学が墳丘・石室の実測調査、1998年(平成10)出土遺物が宇陀市指定有形文化財となっている。この口宇陀盆地には他にも、測量調査が実施され貴重な副葬品が出土したと伝わる古墳が複数あるとも言われている。これらも併せて、出土品や資料の整備、古墳の保護対策も必要かと思う。				
その他 (由緒など)	谷脇集落の東尾根鞍部にある円墳。羨道が玄室の東に寄る片袖型に近い両袖式の横穴式石室で、奥行きに比して横に長い特異なT字型。花崗岩の組合式石棺があり、壁は持ち送り、天井は巨大な一枚岩である。棺内から2対の金環などが出土、人骨の状況などから東西に頭部を置く2体の成人が埋葬されていたと見られている。また、石室内東南隅に須恵器が一括して置かれた上を板石で覆った特殊な出土状態も確認された。				
コメント	径約16m、高さ約5mの小型円墳(前方後円墳説も)だが、珍しい横長T字式石室で、板石を使った石棺(長さ2m、幅65cm、深さ55cm)が玄室の主軸東西方向に置かれている。周りも空間があり、石室の様子も良く分かる。このような古墳が余り知られずに残っていることに驚くと同時に、大切に残して行ってほしいと思った。また、近隣の古墳も保護されていくことを望みたい。また、宇陀の辰砂(水銀朱)は万葉集にも詠まれ、昔から水銀が採れたようで、付近に明治末~1970年代初頭まで、水銀鉱山があったのも興味深い。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

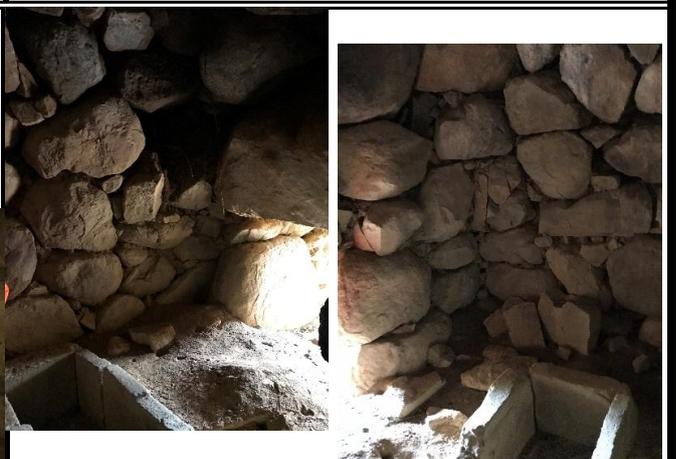
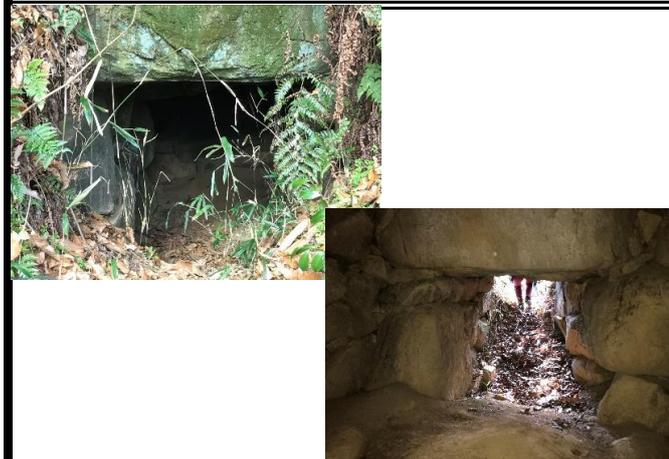
調査日	2020年	12月	3日	記入者	石井 宏子
調査者名	石井	中西	橋詰		

文化財名	谷脇古墳
------	------

開口口付近の説明板	古墳付近
-----------	------



開口部・羨道玄門から開口部	玄室
---------------	----



川原石を積んだ玄室壁と切石の石棺・天井石	出土品の一部(市指定文化財)/説明板の石室図
----------------------	------------------------

